

えがおふれあいたかめあ きらい かがやく あざ二っ子

横浜市立あざみ野第二小学校
学校だより 10月号

第7号 令和6年9月27日発行

学校だよりはホームページにも掲載されています。
学校日記も更新中です。ぜひご覧ください。

青葉区あざみ野三丁目29番地3
TEL 045-902-4866



「まるこ」のようにのびのびと

校長 大幸 麻理

酷暑だった今年の夏、子ども達は連日の暑さにも耐えながら、よく頑張ったと思います。ようやく涼しい風が吹き始め、秋の到来を感じます。

先日の代表委員会で、「ルールを守り笑顔の花いっぱい咲かせるあざ二っ子」という児童会スローガンを受けて、子ども達から出された「登下校時の歩き方ルールやマナーを守れていない人がいる」という問題について話し合いました。（代表委員会とは：児童会委員会【通称スマブラ委員会】が運営し、4年生以上の各クラスの代表委員と5、6年生の各委員会の委員長が出席。月一回、様々な議題について話し合い、全校に発信している。）そこで決まったことが、「朝の見守りボランティア活動」です。5、6年生の有志が、登校時に学校付近の歩道に立ち、車道を歩いたり広がっていたりする人に声をかけ、ルールやマナーを意識できるようにするという活動です。5、6年生30人ほどが参加し、登校してくる子ども達に元気に挨拶をしたり、「歩道を歩いて！」と声をかけたりしていました。今回のように、子ども達から出された問題や提案に対して、子ども達が主体となって話し合い実践することは、子どもの主体性を育てる上で大変有意義なことです。そして、自分たちで考え、決定したことには、子どもはとても意欲的に取り組みます。

さて、子どもから「校長先生の好きなアニメは？」と聞かれると、いつも「ちびまるこちゃん」と答えます。「ちびまるこちゃん」の世界に溢れている空気感を好ましく思うからです。主人公の「まるこ」は、日常生活で気になったことや悩んでいることなどを友達や家族に話し、家族も（特におじいちゃんが）いつも共感的にまるこの話を聞きます。自分が感じたことを素直に話しているまるこの様子に、安心した信頼関係が存在していることが分かります。学校では、まるこが所属しているクラスに個性的なクラスメートがたくさんいます。ひねくれ者で嫌味ばかり言う永沢くん、いつもものすごく威張って命令口調の前田さん、「アハハハ」と笑ってばかりいる山田くん…など、皆超個性的なキャラが多いですが、その子たちが「変なやつ」とか「嫌なやつ」とかいう理由で疎外されたりからかわれたりすることなく、その子としての個性がしっかり認められ受け入れられている仲間になっています。まるこ自身は、周りから見ればどうでもいいようなことで悩み、失敗もたくさんしますが、まるこのように何事もいつも一生懸命に考え、困ったら周りの人に助けを求めたり、助けてもらったことに感謝したりすることができるのはすごいことだなあと感じます。

「ちびまるこちゃん」は楽しいアニメ番組であるだけでなく、大切なことに気付かされることも多いです。

子どもにとって、自分らしくいられる場所、自分をそのまま受け入れてくれる人、そんな環境がしっかりあってこそ、子どもはのびのび育つのだと思います。あざ二小の全ての子ども達が、自分らしくのびのびと成長することを心から願います。

先月号に、挨拶のことを書きました。子ども達の朝の挨拶がどんどん上手になってきて、すばらしいです。校舎内ですれ違うときに、「こんにちは」と挨拶する人も増えてきました。気持ちいいコミュニケーションが取れる子どもがあざ二小にたくさんいます。嬉しいことです。